

# 山木 環境レポート 2023

— 2022 年度 環境保全活動報告書 —



山木工業株式会社

Yamaki-ind Environmental Report 2023

# CONTENTS

● <u>ごあいさつ</u>	2
● <u>復興に向かって・・・(小名浜港)</u>	3
● <u>復興に向かって・・・(勿来地区)</u>	4
● <u>環境マネジメントシステム運用状況</u>	5
● <u>2023年度目標 年度部門目標</u>	6
● <u>2022年度の環境保全活動報告</u>	8
● <u>環境への今までの取組みと受賞</u>	9
● <u>ふだん使いで「カンタン備蓄」</u>	13
● <u>情報公開</u>	14



## 会社概要（2023年3月31日現在）

- 商号：山木工業 株式会社
- 本社：福島県いわき市平谷川瀬三丁目1番地の4
- 設立：昭和16年（創業：昭和16年）
- 代表者：代表取締役 小峰 良介
- 資本金：6000万円
- 事業内容：土木構造物、港湾構造物の施工、建築物の施工及び定期点検
- 従業員数：74名
- JQA-QM4814 認証 ISO9001      JQA-EM4716 認証 ISO14001

## ごあいさつ

2024年3月11日で、東日本大震災の発生から13年が経過致しました・・・

復興庁によりますと、避難者は当初の47万人から2.9万人に減少し、応急仮設住宅の入居者は、最大31.6万人から0.1万人に減少しました。福島県としての、避難者数は16.5万人から2.6万人に減少しました。(2024年3月現在)

2021年度から“第二期復興・創成期間”として2025年度迄、計画を実行しております。

2023年12月に、弊社が参加している「ふくしまゼロカーボン宣言」事業におきまして「運輸・設備業・その他部門」において「優秀賞」に選定され、福島県知事より「表彰状」を頂きました。2023年3月に、弊社が、東双不動産管理㈱様より受注致しました「東京電力㈱いわき寮及び社宅の修繕及び配管、除草・剪定工事等」に於きまして、一年間無災害にて業務を施工、安全最優先の実践の賜物として「感謝状」を授与されました。2023年7月に、芳賀雅之所長が東北地方整備局長より、「永年勤続」の表彰区分において「表彰状」をいただきました。さらに、弊社で施工した「小名浜港ケーソンヤード斜路整備工事」が、小名浜港湾事務所より「優良施工」の表彰区分において表彰を受けた。2023年7月に、伊藤佳幸所長が建設業労働災害防止協会福島県支部より「功績賞」を受賞しました。2023年12月に、いわき花火大会実行委員会より「感謝状」が贈呈された。

2020年10月、政府において2050年カーボンニュートラルが宣言され、2050年までに、温室効果ガスの排出を国全体としてゼロにすることが明確な目標となりました。また、2021年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針も示されています。

県としても、2021年2月に「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言、2021年12月に福島県地球温暖化対策推進計画を改定し、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、2030年度の削減目標を50%※、2040年度の削減目標を75%※としました。

大型化する台風による水害や土砂災害など、自然災害による被害は、企業活動に対しても、持続可能性を脅かすリスクとなります。脱炭素化によって、リスクの回避、機会の獲得を目指す動きが産業政策において世界的な潮流になる中、国内外において、多くの企業が脱炭素の目標を掲げ、企業が自らの事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す「RE100」などの、カーボンニュートラルの実現を目指した具体的な行動を起こしています。そのような中、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)という非財務情報を考慮し投融資を行うESG投資も拡大し、環境に対する企業の行動が金融においても評価されるようになり、一方で、RE100を宣言した企業と取引を行う下請け企業にも再エネの利用が求められるなど、脱炭素の前提となる再エネの導入拡大は、中小企業の今後も含め、日本の産業競争力維持の点からも重要性を増している現況であります。

2024年4月1日  
山木工業株式会社

復興に向かって・・・(小名浜港)

小名浜港ケーソンヤード斜路整備工事完成(2022年7月)



復興に向かって・・・(勿来地区)

勿来漁港離岸堤工事完成 (2023年4月)



## 環境マネジメントシステム運用状況

### ●システムの運用状況および（2015年版）継続的改善

弊社では、ISO14001に取り組んでおり、2005年4月に認証を取得、継続して維持しています。

2013年度より、品質・環境システムの統合マニュアルを作成・運用を開始、2016年4月に、規格改定（2015年度版）への移行を完了致しました。

それに伴い、統合マニュアルの改訂検討、業務効率化（重複及び不要様式の削除・見直し）及び本来業務（環境側面・品質含）の評価／検討を併せて継続実施してまいります。



登録証番号：  
JQA-QM4814  
JQA-EM4716

### ●内部監査

弊社では、システムの運用を開始した2004年度より環境の☆内部監査を実施しています。

2022年度は内部監査年間計画に基づき、2022年6月、8月、9月、10月、11月、12月に実施しました。

### ●外部審査

システムの統合化の一環として、2023年8月に、審査登録機関（一財）日本品質保証機構による品質・環境：2015年版☆複合定期審査を受審しております。

### ●マネジメントレビュー

2022年度は2023年4月に、トップマネジメント（社長）によるマネジメントレビューを実施し、システムの継続的改善を行っております。

### ●品質・環境委員会

毎月下旬に定例の「品質・環境委員会」を部門長以上対象に実施しており、会社全体の品質や環境マネジメントについての意見交換や情報共有等を行っております。

### ●環境教育

◇現場教育

現場事務所において、環境マネジメントシステムの教育を実施しております。

作業所の新規入場者教育や安全衛生協議会等で、実務に必要な環境教育（省エネ運転・緊急事態対応教育含）をシート等使用して、実施しております。



## 2022年度目標

## 2023年度目標

### 受注及び利益の確保

地域貢献

品質確保

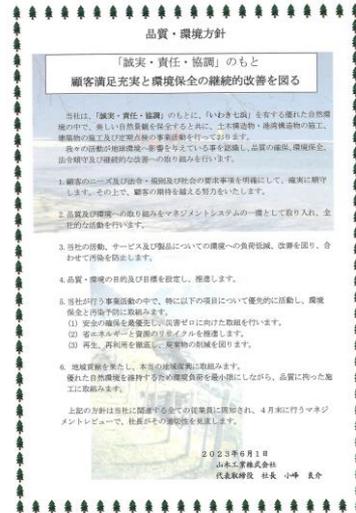
環境負荷低減



ISO 9001・14001



山木工業株式会社



## 年度部門目標

環境マネジメントシステムの取組みの中で、各部門目標を設定し、その達成に向けて環境保全・品質活動を推進してまいりました。

2022年度の活動結果は下表のとおりです。

部門目標は、営業部、土木工事部★未達成でした。

2014年度より、環境目標を従来の品質目標と合わせて設定致しました。

### ● 2022年度の活動結果（目標達成状況）と2023年度の目標値

【評価凡例】☆：目標達成 ★：目標未達成

#### ・総務部

2022年度目標	2023年度目標
① （社外資格取得）施工管理技士 1・2級：1名以上：☆100%	② （社外資格取得）施工管理技士 1・2級：1名以上：100%
① （緊急事態対応：大地震等） 安否確認システム運用訓練・確認：☆100%	② （緊急事態対応：大地震等） 安否確認システム運用訓練・改善：100%

#### ・営業部

2022年度目標	2023年度目標
① （企業活動：地域社会貢献） 年度受注目標：★95%	① （企業活動：地域社会貢献） 年度受注目標：100%

・土木工事部・小名浜工事事務所・建築工事部

小名浜工事事務所 安全★未達成

2022年度目標	2023年度目標
①（品質：評価点合格件数） 目標値：☆100%	①（品質：評価点合格件数） 目標値：100%
②（安全：休業4日以上労災0件） 目標値：★96%	②（安全：休業4日以上労災0件） 目標値：0件
③（工期：工期内完成件数） 目標値：☆100%	③（工期：工期内完成件数） 目標値：100%
④（予算：予算内達成件数） 目標値：☆100%	④（予算：予算内達成件数） 目標値：100%

2023年度部門目標

・受注目標額を達成する。



2023年度部門目標

総合評価率100%達成！



2023年度部門目標

総合評価率100%達成！



2023年度部門目標

総合評価率100%達成！



# 2022年度の環境保全活動報告

## 1. 地球温暖化防止対策

地球温暖化防止への主な取組み

- 建設発生土等の排出量及び搬送距離の削減
- アイドリングストップ及び省燃費運転の促進
- 重機・車両の適正整備点検実施
- 建設現場や事務所での省エネルギー活動の推進

## 2. 建設副産物対策・リサイクル

- 建設廃棄物の処理状況

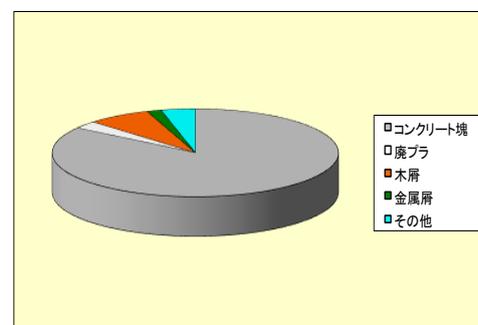
◇建設廃棄物の総排出量

2022年度の建設廃棄物総排出量は、2,280t。

内訳は、土木工事（港湾工事含）が724t、建築工事が1,556t。

◇廃棄物の種類別排出状況

2022年度の建設廃棄物の種類別排出量（全体）は、コンクリート塊 85%、（木屑、廃プラ、金属屑、その他）15%。



- 再生資源利用促進

◇再生資源の利用促進

建設リサイクル法により再資源化が義務づけられている特定建設資材廃棄物（コンクリート、鉄筋コンクリート、アスファルト・コンクリート、建設発生木材）の再資源化を徹底するとともに、再生資源の利用促進に努めます。

※ 再生資源の利用促進とは、

建設副産物を現場内で再利用することです。

再資源化施設に運んで再生資源として利用することです。

## 環境への今までの取組みと受賞

### エコキャップ運動に参加（重点分野：プラスチックごみ対策）

（目標：エコキャップ運動に積極的参加）

「捨てればごみ、分ければ資源」と言われますが、プラスチックも、きちんと分別すれば資源としてリサイクルすることができます。日本では、プラスチックごみを分別回収し、リサイクルする社会の仕組みもできています。日本の廃プラスチックのリサイクル率は 27.8%で、回収された容器包装プラスチックの①半分以上は焼却処分して、発電や熱利用②14%は未利用のまま、焼却や埋め立て処分されているのが現状です。私たちは、毎日のようにプラスチックを使い、プラスチックごみを出しています。例えば、お店でもらうレジ袋、プラスチック製のスプーンやストロー、商品のパッケージ等。日本は、一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界で 2 番目に多い国です。プラスチックの 3R を進めるためには、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取組をしていくことが重要です。



弊社におきましても、“廃プラスチック類の分別の徹底とリサイクルの促進”は基より、シンボライズした活動として、“エコキャップ運動”に積極的に参加継続しております。

### 安全大会実施（熱中症対策等）（2023年6月15日）

（適応分野：気候変動適応策）（目標：熱中症ゼロを目指す。）

いわきワシントンホテル椿山荘にて、「令和 5 年度安全大会」を開催、社員と協力会社が集い、安全衛生・災害防止について安全衛生管理計画説明・安全宣言等を実施、加えて“熱中症対策”の教育としては、作業現場において①現場の気象情報に要注意！②散水によって気温を下げる③大型扇風機やファンを置いて冷却する④足場に遮光ネットとドライミストを設置する⑤経口補水液や塩タブレット、スポーツドリンクを休憩所に常備する⑥コンプレッション、アームカバー、ヘルメットインナーといった冷感効果のある作業着を配布する等の説明を行いました。



## ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（2023年10月13日）

東北最大級の環境・エネルギーイベント「第12回ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（REIF ふくしま2023）」が、2023年10月12日（木）～13日（金）2日間の日程で、郡山・ビッグパレットふくしまで開催されました。

同県では、「再生可能エネルギー先駆けの地“ふくしま”」実現に向けた取り組みや、福島水素エネルギー研究フィールドなどの整備など、再生可能エネルギー・水素の導入拡大や関連産業の育成・集積に取り組んでおり、「“ふくしま”がリードする再エネ・水素社会の実現」がテーマとなっております。来場者数は、2日間で延べ3,280名、出展者数は191企業・団体となり、再生可能エネルギーや水素に関する最新の技術・製品を展示しました。

出展分野は、太陽光、風力、バイオマス、次世代電力マネジメント、地熱、水素、燃料電池・蓄電池、省エネルギー、水力、サーキュラエコノミー（循環経済）、金融、土木・建築、自治体・支援機関・学校・研究機関と多岐にわたりました。

### ・福島大学様



### ・福島ミドリ安全(株)様



### ・志賀塗装(株)様

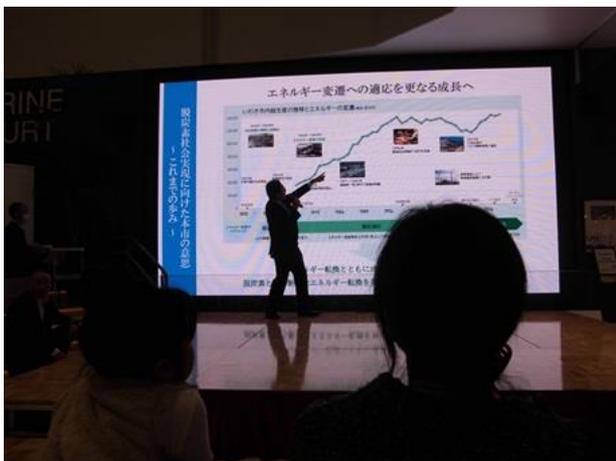


# いわき市脱炭素社会実現プラン公表式（2023年11月26日）

いわき市脱炭素社会実現プランとは・・・

地球温暖化の進行に伴う気候変動によって、生態系への影響はもとより、異常気象の頻発、自然災害の激化といった市民の生命・財産の安全が脅かされる事態につながっており、経済・社会の持続的な発展のため地球温暖化対策に取り組むことは、国、地方公共団体、市民、事業者及び民間団体などが密接に連携し、かつ主体的に取り組むべき共通の課題となっています。

いわき市長が、イオンモールいわき小名浜で開催された、「いわき市脱炭素社会実現プラン公表式」に出席してプランの説明を致しました。



## 第68回いわき花火大会事業報告会（2023年12月1日）



8月5日に行われた「第68回いわき花火大会」の事業報告会は12月1日、イオンモールいわき小名浜で開かれた・・・

報告会では、大会会長の内田市長が「花火大会は夏祭りの最大イベント。いわきの魅力あるコンテンツとして、今後も盛り上げてほしい」とあいさつ致しました。正木好男実行委員長は「皆さんのおかげで、4年ぶりにフルスペックでの花火大会を実現でき、今後も特段の協力をお願いしたい」と呼びかけた。

議事では各実行委員会による報告と、収支決算が承認された。報告会の席上、運営協力に関する感謝状が贈呈され、内田市長から小名浜海星高、五洋建設、山木工業、イオンモールいわき小名浜に贈られた。



## ゼロカーボンへの挑戦表彰制度表彰式（2023年12月5日）

福島県は12月5日、2050年までに二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）などの温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標に向け、地球温暖化対策に率先して取り組む事業所をたたえる本年度の「ふくしまゼロカーボンへの挑戦」の表彰式を福島市の福島テルサで行い、弊社は「優秀賞」に選定され福島県知事より表彰を受けました。同部門の授賞は11回目となりました。※「最優秀賞」は3回。内堀知事は「今後も地域のゼロカーボン推進の先導役として積極的に取り組んでほしい」と述べ、各事業所の代表者に表彰状を贈った。



## エコドライブ講習会実施（2023年12月20日）

弊社2F会議室において、“地球とお財布にやさしい運転”を学ぶエコドライブ講習会を実施しました。講師として一般社団法人日本自動車連盟福島支部事業課課長田代秀之氏にご講演頂きました。エコドライブのポイントは、①発進時：発進は一呼吸おいて、それからアクセルを徐々に踏み込みましょう②走行時：先の状況をよく見て、アクセル一定で走行しましょう③減速時：停止位置を予測して、早めにアクセルOFFを④停車時：人を待つ間などは、アイドリングストップに！今回“通常のエコドライブ運転とふくしまゼロカーボン宣言事業”及び酒気帯び運転等についてもご講演頂きました。



## 「感謝状」受賞（2023年3月吉日）

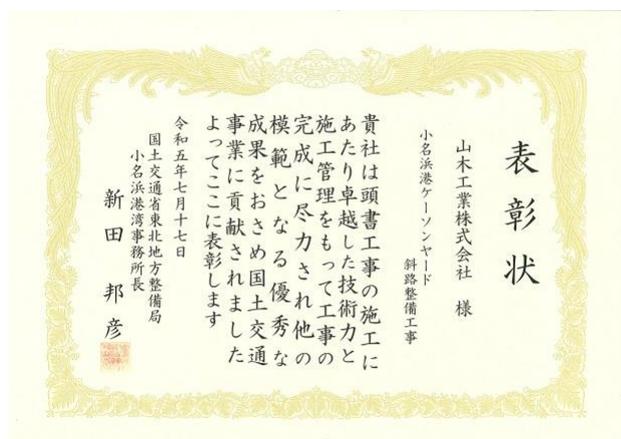


弊社は、東双不動産管理様より受注致しました東京電力様いわき寮及び社宅の修繕及び配管、除草・剪定工事等に於きまして、一年間無災害にて業務を施工致しました。安全最優先の実践の賜物として感謝状を授与されました。

## 令和5年「海の日」海事関係功労者表彰式（2023年7月27日）



弊社からは「永年勤続」の表彰区分において、多年にわたる港湾建設業務に精励したことが認められ、芳賀雅之所長が東北地方整備局長より表彰を受けました。



「優良施工」の表彰区分において、弊社で施工した「小名浜港ケーソンヤード斜路整備工事」が、国土交通事業に貢献したと認められ、小名浜港湾事務所長より表彰を受けました。

## 第 55 回福島県建設業労働災害防止大会（2023年7月26日）



建設業労働災害防止協会福島県支部主催の第 55 回福島県建設業労働災害防止大会において、弊社 建築工事部 伊藤佳幸所長が功績賞を受賞しました。



## “食品ロス” にしない ふだん使いで「カンタン備蓄」

ISO 推進室 室長 与田 裕

保存食を備蓄しておくことも、もちろん大切なことではありますが、日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方があります。普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストックと言います。ローリングストックのポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができるはずです。

ローリングストックには2つのポイントがあります。

### ① 古いものから使うことです。

備蓄する食料が古くなってしまわないよう、消費の際には、必ず一番古いものから使うようにしましょう。

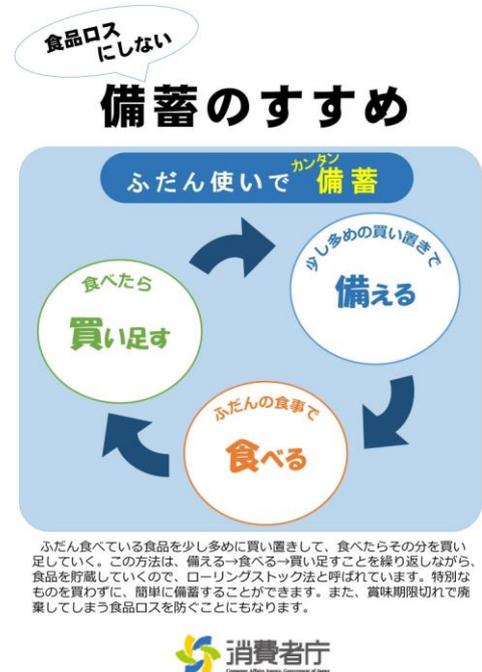
新しいものを右側に配置し、⇒左側の古いものから使っていく、それぞれ合った備蓄方法で上手に循環させることが大切です。

### ② 使った分は必ず補充することです。

ローリングストックでは、備蓄品としてストックしているものはいつ食べても構いません。ただし、消費した量を必ず買い足すようにしましょう。ちょっと補充を怠ったタイミングで災害が来る可能性もありますから、消費した分の補充は必ず直後に行いましょう。

ローリングストックについて、災害が起こると食料の確保が最優先されます・・・

備蓄の必要性を感じている方も、実際に食料を備蓄しておくことはなかなか難しいものです。災害時に役立つと言われている保存食も、何がどれくらいあるのかということを定期的を確認したり、食べ方を知っておかなければ、いざという時に賞味期限が切れていたり、温めなければ食べられず、食事にありつけなかったりするかもしれません。ローリングストックとは保存食を備蓄しておくことも、もちろん大切なことではありますが、日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方もあります。普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストックと言います。ローリングストックのポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができるはずです。



## 情報公開

### ●環境法規制の遵守状況

環境法規制、条例等に関する最新情報を国、地方自治体及びインターネット、各協会より随時入手確認しております。

改正情報の詳細を「環境法規制及びその他要求事項一覧表」に記載追加後、各部門・現場代理人に配布しております。

環境法規制及びその他要求事項の順守状況について、各プロジェクトは、終了後確認実施。

各部門については、☆内部監査（年2回）を定期的を実施し、且つ年度末に確認実施。

その結果、2022年度の環境法規制に対する違反は0件でした。

### ●ホームページ

弊社の環境保全に対する取組みをホームページ上で紹介しています。

ホームページ：<https://www.yamakiind.jp/>

発行：山木工業 株式会社

本社 〒970-8036 福島県いわき市平谷川瀬三丁目1番地の4

TEL : 0246-23-1301（代表）

FAX : 0246-23-1475

お問合せ先：ISO推進室

TEL : 0246-23-1302

E-mail : [h-yoda@yamaki-ind.co.jp](mailto:h-yoda@yamaki-ind.co.jp)

- ・発電機（稼働点検・確認）実施（2023年7月）

